

20周年記念史



一般社団法人 日本樹木医会兵庫県支部

表紙の写真
樽見の大ザクラ
(国指定天然記念物・昭和26年指定)

エドヒガンの巨樹で、仙桜として古くから名声が高く、但馬名所の一つに挙げられてきた。兵庫県最大の大桜である。江戸時代に幕府の生野代官所と出石藩の領地境界木であったと伝えられる。昭和後期に入り樹勢衰退が著しくなり、平成7年から樹勢回復治療を行い、現状を取り戻した(本文12頁参照)。

撮影 平成20年4月

あ い さ つ

平成3年、兵庫県に初めての樹木医が誕生し、6年1月に当時7名（1期～3期）の樹木医により「兵庫県樹木医会」を発足させました。以来20年、毎年認定される新樹木医を迎え、先輩樹木医の指導のもと、研修会等を通じて技術、調査、治療法、見聞を広め、現在百余名の樹木医が県内外で活動を続けています。

発足以来20年の節目を迎え、一般社団法人日本樹木医会兵庫県支部20年史を発刊する運びとなりました。このことは大変喜ばしく名誉なことでもあります。これもひとえに、会員一同の日頃の「樹の命を守る」という使命感のもと、樹々に対する並々ならぬ愛着心と樹勢回復への努力、研究、技術の研さんを重ねて、樹々も見守り続けてきた総合的な賜物であると思われれます。また、私達は行政を始め多くの方々から多大なご支援、ご鞭撻を賜る中で活動していることに、心より深く感謝し、お礼申し上げます。

この20年間に私達は多くのことを学ぶことができました。中でも平成7年1月の阪神・淡路大震災により火傷を負った樹木の回復力には心を打たれました。炭化した傷口を黙々と治癒し春に新葉を出している姿には樹の生命力の偉大さに感動し、畏敬の念すら抱きました。

私達はこれからも会員一同一丸となって更なる発展を期し、社会に貢献していく所存です。今後ともよろしくご支援、ご協力を下さいますよう心からお願いを申し上げ、発刊のご挨拶とさせていただきます。

平成26年3月

一般社団法人日本樹木医会
兵庫県支部支部長 河合浩彦

国指定天然記念物



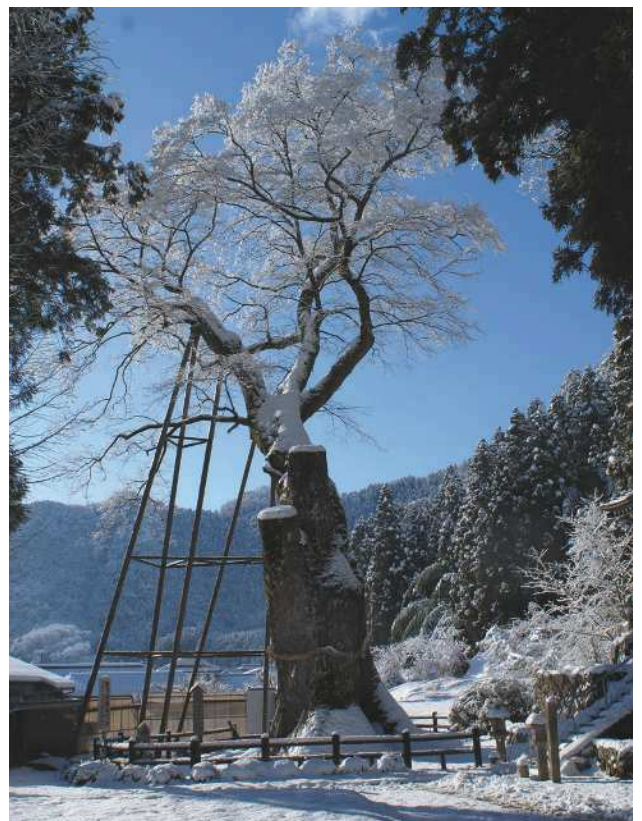
日置のハダカガヤ（平成17年）
（篠山市日置）



畑上の大トチノキ（平成17年）
（豊岡市畑上）



八代の大ケヤキ（平成21年）
（朝来市八代）



同左（平成24年2月）



口大屋の大アベマキ（平成20年）
（養父市大屋町）



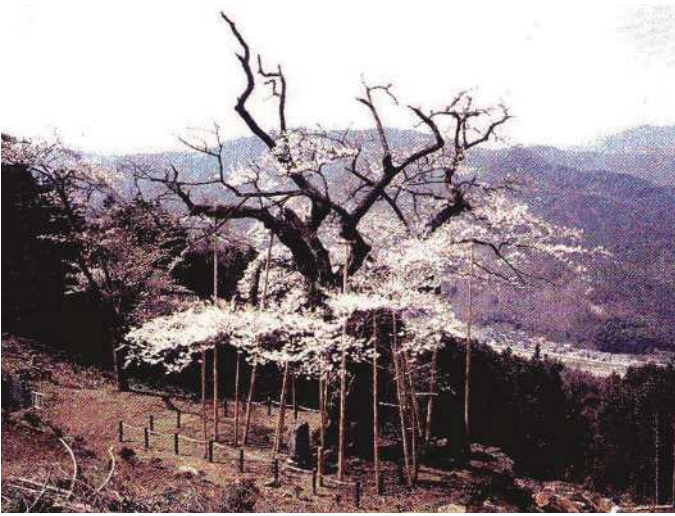
同左（平成24年）



糸井の大カツラ（平成17年）



糸井の大カツラ（平成22年）



樽見の大ザクラ（平成2年）
（養父市大屋町）



同左（平成10年）



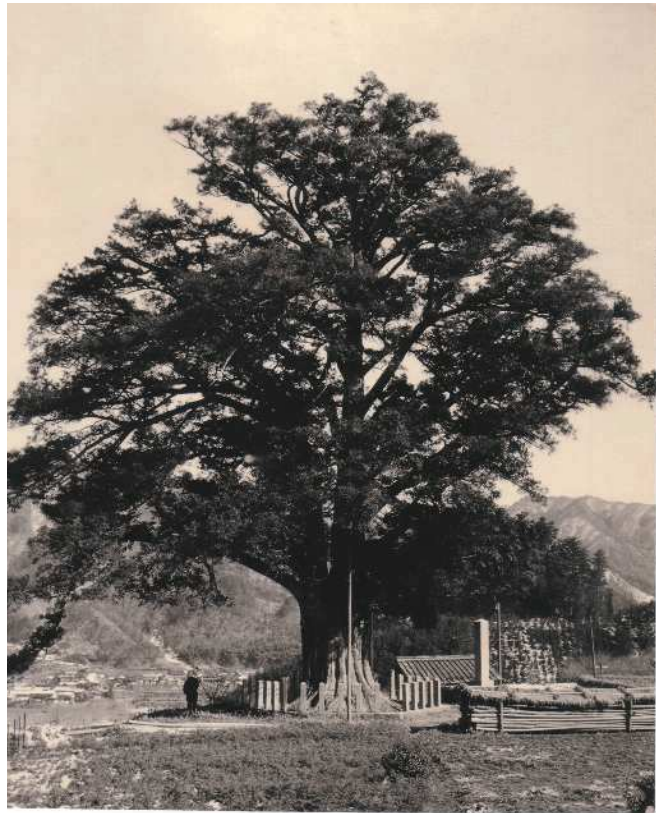
樽見の大ザクラ（平成16年）
（養父市大屋町）



追手神社のモミ（平成25年）
（篠山市大山宮）



ヒダリマキガヤの種子
上／原形 下／皮を剥いた種子



建屋のヒダリマキガヤ（昭和31年）
（養父市能座）



（平成24年）

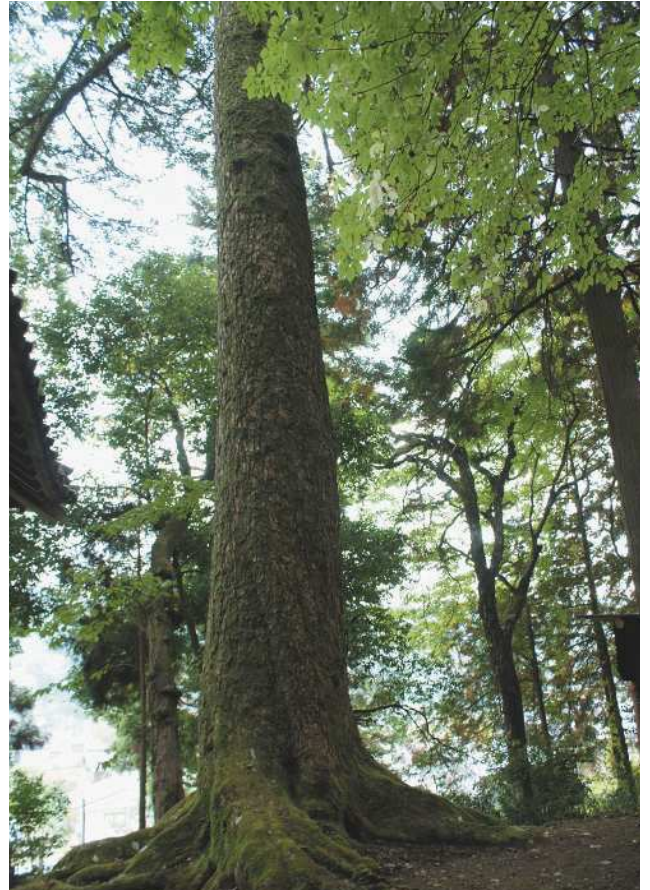


（平成25年）

県指定天然記念物



福富のアカメヤナギ（平成25年）
（美方郡新温泉町）



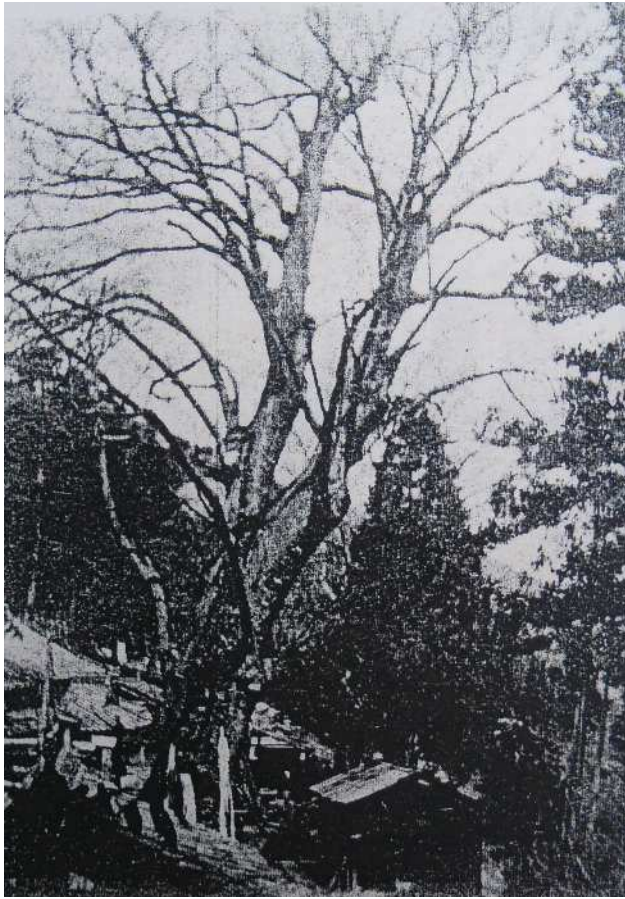
白藤神社の大モミ（平成22年）
（豊岡市大谷）



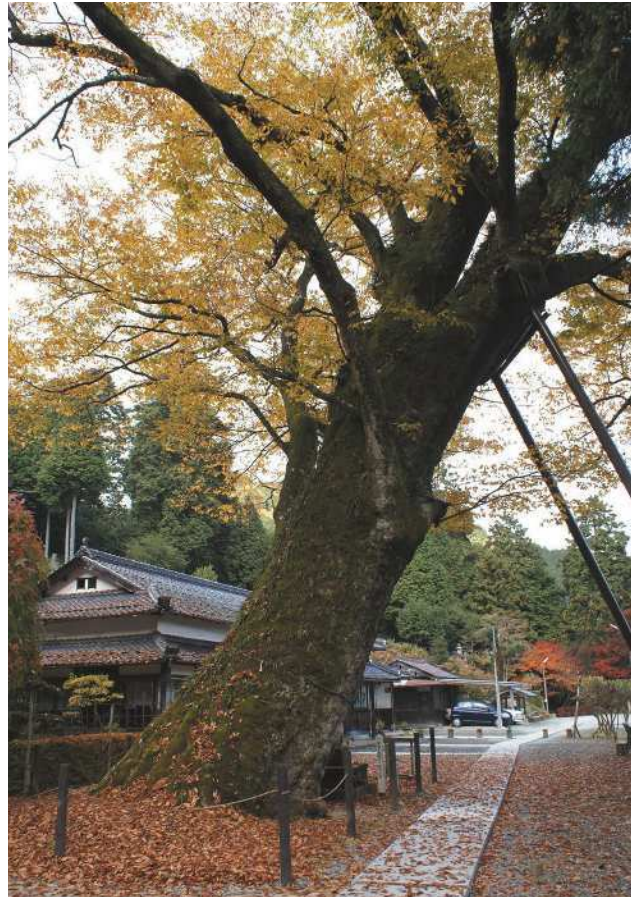
池王神社のアカガシ（平成21年）
（宍粟市一宮町）



八幡神社のモッコク（平成22年）
（宍粟市山崎町）



円応寺の大ケヤキ（昭和初期）
（朝来市生野町）



同左（平成20年）



大歳神社のフジ（平成22年）
（宍粟市山崎町）



三日月の大ムク（平成20年）
（佐用郡佐用町）



矢野の大ムクノキ（平成16年）
（相生市矢野）



中宮神社の大スギ（平成18年）
（宍粟市千種町）



佐用の大イチョウ（平成20年）
（佐用郡佐用町）



柏原の大ケヤキ（木の根橋）（平成19年）
（丹波市柏原町）



法雲寺のジャクシン（平成20年）
（赤穂郡上郡町）



神前の大クス（平成12年）
（神戸市灘区）



岩上神社の夫婦杉（平成18年）
（宍粟市山崎町）



光福寺の大イトザクラ（平成22年）
（佐用郡佐用町）